

増本一彦・中央本部会長 2月6日逝去

遺志受け継ぎ 2万同盟建設

2020年代に「治安維持法体制」に決着付けよう！

増本一彦中央本部会長が2月6日、お亡くなりになりました。85歳でした。増本さんは2015年6月14日の第37回全国大会で会長になりました。6年7か月の長きにわたって、私たちを大いに励まし、同盟の発展に力を尽くされました。1月30日のオンライン3役会議では、自宅のベッドに横たわって参加、発言されました。その時の発言の要旨は「自公政権を打倒して新しい政治を生み出し、『2020年代に治安維持法体制に決着をつける』ためにも、質量ともに地力を付けましょう。6月全国大会までに2万の同盟を建設しましょう」ということでした。

増本会長は、2016年10月3・4日、札幌市での道同盟40周年記念集会で講演されました。その折、参加者の一人に訴えて会員を増やすなど、会員拡大に誰よりも力を入れていました。「2020年代に治安維持法体制に決着をつける」という強い意志を持って同盟の指導に当たつてこられた増本さんのご遺志を、私たちはしっかりと受け継ぎ頑張ろうではありませんか。

会長代理に吉田万三副会長

2月20日の3役会議では、増本会長のあと、6月の全国大会までの間、現東京都本部会長で、中央本部副会長の吉田万三氏を会長代理に選出しました。

国会請願は5月11日(水)に決定

ロシアはウクライナ侵略を即時にやめよ！

特別期間 3月1日～6月30日の2万会員達成を

会員拡大に支部で 目標を持ちましょう

2月20日、中央本部3役会議がオンラインで開かれ、改めて同盟2万人達成をめざすことが決議されました。会議の発言の特徴は、伊藤千代子の映画の成功と併せて、同盟員の拡大を進めようと、全国で頑張っていることが報告されました。

「3・15」弾圧とは？伊藤千代子とは？の学習の中で、同盟の存在を多くの人に知つてもらう取り組みが進み、2万同盟の展望が明らかになっています。

特別期間は3月1日からで、5人以上の拡大者には顕彰を、と伝えられていますが、1月1日以降の拡大を含めるということです。したがって、今年に入つての南・北空知、北見各支部の拡大が含まれます。2万人同盟実現のために必要なことは、拡大目標を持つことです。北海道は1300人を何としても、訴えていますが、各支部でも目標を持ちましょう。小樽支部では8人増やして70人の支部を作る、と頑張っています。南空知支部は1月の目標を6人と決めてやり遂げました。目標を持つことで推進力が湧いてきます。

各支部は、それぞれ6月全国大会までに、2万人に呼応する目標を持つ頑張りましょう。



(573号付録)
北海道版 No.471
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
北海道本部

編集発行人 宮田 汎
〒065-0018 札幌市東区北18条
東15丁目3-6ブランノワールF101号
電話 011 (374) 8280
FAX 011 (374) 8281
郵便振替・02740-7-24209

全国大会迄に70名の支部を先人の発掘続ける

—新支部長に大黒和夫さん—小樽支部第27回総会

1月28日に予定されていた小樽支部総会は、コロナのため会場が使えず、やむなく、役員選出も含め文書回覧で行うことになり、このほど多少の加筆も含めて次の方針(要旨)を決定しました。

- ①団体署名50、個人署名600筆を目標に1人10筆運動を進める。
- ②6月全国大会までに、2万会員に呼応して70名(現62名)を達成する。

③伊藤千代子の映画2口目を目指す。余市町などで学習講演会を。

④小樽後志の治安維持法犠牲者は50名を超えている。その不届の闘い発掘を継続していく。

⑤「不届」小樽後志版は先人の紹介を続け、文芸欄を充実させ、「読まれ・待たれる」ニュースに。

故・寺井勝夫支部長の後任には大黒和夫さんが選出されました。

改憲許さぬ運動で強固な支部を

大黒和夫・新支部長挨拶

皆様こんにちは。この度の総会で小樽支部長に選出されました。よろしくお願ひします。

また、北海道新聞社に依頼して、いた「後援名義の使用」についても、2月4日付で「名義使用承諾

幸がありました。寺井さんの永年のご苦労と御功績に対し感謝とご冥福を申し上げます。

いま、政府によって「敵基地攻撃」とか、「歴史戦」とか、まる

で戦前を彷彿させるような声がまかり通っています。

いまこそ、同盟の出番です。憲法改悪、治安維持法体制の復活を

許さない運動を強化し、支部会員62名が結束し、会員増をはじめ、強固な支部を目指しましょう。

以上決意を述べて挨拶とします。

また2月16日には西・手稲区で準備会を開きました。既に発足している豊平区実行委では、清田区

を包括して進める方向で動いているとのことで、札幌市全区での上映会の土台が出来ました。

「これらの取り組みで多くの人となり、大きな前進」と同会では喜んでいます。この承認には「寄付行為等に付随する活動には名義を使用しない」「政治活動、宗教活動、営利活動、暴力団との共同活動」を行わない等の遵守が承認条件となっています。

千代子の映画6口突破

7口目指し呼びかけ

【釧路】釧路の千代子映画上映実行委員会の「会報」13号によりま

すと、1月18日現在、183人9団体による募金額は64万8339円となり、6口を突破し、さらに7口を目指そうと呼びかけていま

委員会の立ち上げの見通しがついたと、隼野弘子・札幌支部事務局長から報告がありました。

既報通り、東、北、中央、南の各区と江別では既に実行委が出来ていますが、2月5日には白石・厚別区で、14人が集まり、実行委を立ち上げ、当面、2口を目指して募金活動に入りました。

【札幌】市全区で千代子上映実行委
「わが青春」上映実行委
札幌市全区で立ち上げ

白石・厚別区、西・手稲区で

「つながり生かし同盟拡大」も

また、北海道新聞社に依頼して、いた「後援名義の使用」についても、2月4日付で「名義使用承諾

支部長先頭に拡大口火切る

北見、北空知で3人入会

西野敏郭氏ら2人入会

【北見】1月31日、本間昭一支部長から、日本共産党の元道委員長で、現在、北見在住の西野敏郭さんが入会され、また千代子の映画上映にも協力の約束を頂いたと報告されました。西野さんの入会は、2万同盟建設の大きな励みになります。

2月に本間さんはもう1人拡大です。入会された方は、若かりし頃、共に青年運動を闘った方だそ

うです。「不届」北見版の裏面に、「入会申し込み紙」を縮小コピーして配布したことが、入会の訴えに役立ちました。3月の「特別行動月間」の成功へ向けて2月の活動前進が大切と、本間さんは頑張りました。

樋坂、星両氏の

訴えで入会

【北空知】1月中に、北空知支部長・樋坂里子さ

んと支部幹事の星厚早さんが訴えて、建交労の畠山さんが入会されました。嬉しいですね。

350人、200人の支部を

【札幌】「不届」札幌版、釧路版訴え員350人の実現を!と見出しを付けて会員に訴えました。

【釧路】「不届」支部版2月号は「会員目標の200名会員へ」と訴えています。

紹介と ご案内

本道の女性労働運動 ～女性たちの活動の足跡をさぐる～

表題の展示催しが昨年メーデーを前にして道庁ロビーで開催されました。

戦前のメーデーは女性たちも登壇し、子どもを背負つて隊列の先頭に立ち、函館・小樽・旭川の新聞紙上を賑わしました。

これは北海道労働資料センター所蔵資料が、道民に活用されるよう、5年前から炭鉱労働運動・農民運動・鉄道などの企画展示を北海道主催、北海道労働文化協会（労文協）等の共催により実施されてきた取り組みの一環です。初

の女性労働運動史は、作業開始後のコロナ禍により開催中止、再開を経て実施に至りました。

展示は、女性労働運動の一部分ながら、目で判ることを重視。戦後労働行政を反映した『北海労働』、『資料北海道労働運動史』や略年表などを生かした分野と、戦前のメーデー、小作争議や戦後の労働、総評傘下の北海道主婦会・家族会の動向のグラフ、写真、うたごえ活動の放映、貴重な戦前職安資料『赤澤文庫』です。

展示内容は、労文協発行『労文文化』に掲載中ですが、ここでは『労文文化』2022年1月号にて頒布します。

支部名	団体署名		個人署名		
	目標数	到達数	目標数	到達数	到達率
札幌	400	22	8000	1576	19.7%
小樽	50	7	1500	95	6.3%
道南	150	1	2000	285	14.3%
室蘭	30	23	500	61	12.2%
道北	300	0	3000	25	0.8%
十勝	100	3	2000	236	11.8%
釧路	150	5	2500	186	7.4%
南空知	50	16	1500	605	40.3%
苦小牧	80	17	2000	820	41.0%
北空知	60	3	1500	55	3.7%
北見	70	44	2500	777	31.1%
道本部	50	1	1000	222	22.2%
合計	1570	142	31500	4943	15.7%

展示内容は、労文協発行『労文文化』に掲載中ですが、ここでは『労文文化』2022年1月号掲載

連絡先・岸伸子（電話・FAX011・7900・7572）

北の群像



岩戸 貞雄

生活図画事件で弾圧された
野球・クラシック好きの教師

1941年の「生活図画事件」

で検挙された、旭川師範卒業の小学校訓導（教師）で一番年長の人には、これまで「不屈」に掲載した本間勝四郎ですが、今回は、同級の岩戸貞雄を紹介しましょう。

砂川小学校に勤めていました。

同期の卒業生には、本間勝四郎、柏葉堅太郎、坂原義弘、佐渡義正、西正三らがいて、卒業後も「ロンド」というサークルを作り、交流がありました。

41年「事件」があつたのは結婚直前でした。岩戸は9月20日の朝、

小学校卒業のあと、給仕として勤めた後、高等科に進み、師範学校に入りました。岩戸の家は、旭師範の恩師・熊田満佐吾先生の下宿と一丁程の近くでしたから、よく遊びに行き、先生の大好きなクラシック音楽を聞いていました。

岩戸は、あまり絵は描かず、野球に打ち込んでいました。旭川中央小学校時代は、日章小学校在学のスタイルヒンと闘つたこともあつ

たそうです。師範の時もKYOKU U S I (旭師) のユニホームで野球をやっていました。

家は8条8丁目と近くなので、英さんの母がよく差し入れに行つて

いました。英さんの父は、女満別の飛行場の仕事に行つていましたが、岩戸の逮捕に「何、大したことはない」と鷹揚でした。英さんは、女学校を出てから、挺身隊として亀戸の被服廠で働き、貞雄さんの公判には帰ってきて傍聴し、菅笠を被った貞雄さんを見たと話していました。

岩戸は、1943年10月11日、旭川地裁で懲役2年、執行猶予4年の判決となりました。

獄中でレボ「眞実を主張せよ」が

刑務所の中で、やはり生活図画事件で収監されている仲間から届いたレポを渡しているのが見つかり、釈放が遅れたのだと英さんに話していたそうです。

このレポについて、佐渡義正は、のちにこう書いています。「(昭和)十八年の春頃だったか、突然一片の秘密レポが届いた。『我々は無罪である。これから予審尋問は一勢(斉)に否認して行こう。方法はたゞ一つ眞実を語り眞実を主張することだ』衝撃が走った。

「日本炭素工業」に勤めるように強制されました。この工場は、石炭を原料として航空燃料を作る工場でした。工場には、師範学校の4年後輩で、やはり生活図画事件で検挙された山下懋(つとむ)も働かされていて、よく岩戸の家に来て「刑務所」の話をしていました。同年、赤平町平岸に「日本油化工業」が出来、宮川寅雄（日本共産党中央委員として懲役6年の刑を受けた）も警視庁から在京を禁じられ、ここで働いていました。

44年正月に岩戸貞雄は、英さんと結婚、翌年長男も誕生しました。戦後、「日本炭素」は豆炭やコークスを作る工場となり、岩戸は宮川と一緒に労働組合を作り、道庁に交渉に行ったりして活動しました。一時期、日本共産党にも入りました。1950年に、「日本炭素」札幌営業所課長になりました。

月21日、波乱の人生を終えました。葬儀には東京の教育評論社で働いていた山下懋も参列しました。

(2005年7月22・25日に岩戸英さんから伺ったことをまとめました。道本会長・宮田汎)